CHAPTER 19

L2TPv3 の設定

この章では、Cisco IOS Software Release 15.1(3)S で L2TPv3 を設定する手順について説明します。

（注） この章で使用しているコマンドの構文および使用方法の詳細については、次の URL の『Cisco 7600 Series Router Cisco IOS Command Reference』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6922/prod_command_reference_list.html

この章の内容は次のとおりです。

- 「L2TPv3 の概要」（P.19-1）
- 「L2TPv3 の設定」（P.19-2）

L2TPv3 の概要

Layer 2 Tunneling Protocol version 3（L2TPv3; レイヤ 2 トンネリング プロトコル バージョン 3）機能は、L2TPv3 と疑似回線（PW）テクノロジーを使用してイーサネット トラフィックにトンネリング サービスを提供します。この機能は、RFC3985 Pseudowire Emulation Edge-to-Edge（PWE3）アーキテクチャで推奨されるネットワーク トポロジのプロバイダー エッジ（PE）ルータとして機能する SUP720-3B/3BXL および RSP720 ルータ用に開発されました。また、L2TPv3 は、Cisco 7600 ルータと、標準準拠のシスコ デバイスまたは非シスコ デバイスとの間の相互運用性をサポートします。

L2TPv3 トンネルは、2 台の PE ルータ間の制御接続です。1 つの L2TPv3 トンネルが複数のデータ接続を持つことができ、各データ接続は L2TPv3 セッションと呼ばれます。制御接続は、セッションの確立、維持、および解放に使用されます。各セッションは、ルータ全体で固有のセッション ID によって識別されます。

図 19-1　L2TPv3 対応のネットワーク トポロジ

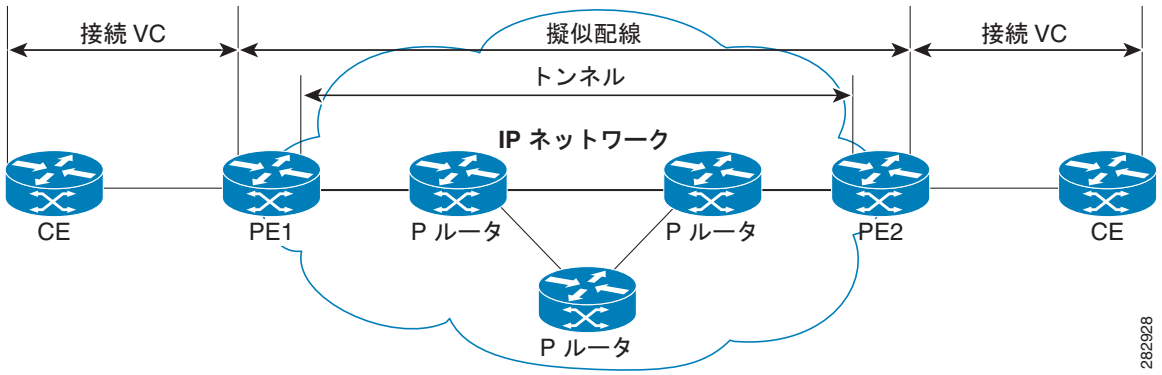

図 19-1 では、接続仮想回線（VC）が、カスタマー エッジ（CE）デバイスとプロバイダー エッジ（PE）デバイスを接続する物理または論理ポートを表しています。疑似回線は、2 つの接続 VC を接続する VC として定義され、各方向に 1 つずつ、計 2 つの L2TPv3 トンネル パスで構成されます。

L2TPv3 の制約事項

L2TPv3 には、次の制約事項が適用されます。

- レイヤ 2 相対ラインカードは L2TPv3 対応ラインカードにする必要があります。
- レイヤ 2 相対ラインカードごとに 1 つ以上の異なる L2TPv3 トンネルが必要です。
- Cisco 7600 ルータの L2TPv3 機能は、ES+ および SIP 400 ラインカードでサポートされます。
- Cisco 7600 ルータは、レイヤ 2 フレーム対応の IPv4 トンネリングのみサポートします。
- L2TPv3 機能は、カプセル化する PE での EoL2TPv3oMPLS などの設定はサポートしません。
- L2TPv3 機能は、最大 16,000 の疑似回線をサポートします。
- L2TPv3 は EVC 機能と同時にサポートされません。L2TPv3 は、EVC と同じポートに存在します。つまり、一方のサブインターフェイスが L2TP を介した dot1q タグ付きトラフィックのトンネリングに使用され、もう一方のサブインターフェイスは EVC 機能の実行に使用されます。
- Cisco IOS Release 15.1(3)S では、ES+ ラインカードで 4000 の IP トンネルがサポートされます。
- L2TPv3 機能は SSO をサポートしません。HA セットアップで L2TPv3 セッションに対するクッキーをイネーブルにする必要があります。

L2TPv3 の設定

L2TPv3 の設定については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/routers/7600/install_config/ES40_config_guide/es40_chap4.html を参照してください。